

# JOYAMA NEWS

vol. **50**

2021 Summer

Joyama 通信  
福岡教育大学広報誌

University of Teacher Education Fukuoka  
Campus Magazine

50号特別企画

『まなぶ・つなぐ・ひろがる』



国立大学法人

福岡教育大学





学生の日線で福岡教

# 『まなぶ・つな』

主役は学生、魅力あ

今回は記念すべきJOYAMA通信50号の特別企画として、学生支援ネットワーク事務局(COMES Net)のJOYAMAプロジェクトチームが紙面構成を企画し、学生目線という新しい視点で、本学の魅力を余すところなく紹介します。



# 50

CONTENTS

vol.

02 50号特別企画  
『まなぶ・つなぐ・ひろがる』

12 福教大NEWS

18 教員紹介  
& 学生から見た先生の魅力

19 サークル紹介  
柔道部  
茶道部

20 第27回 福教大卒OB&OG紹介  
福岡市立平尾小学校  
前田 裕作さん  
新宮町立新宮小学校  
中川 朱里さん

22 TOPICS  
福岡教育大学オリジナルグッズ  
販売中!  
表紙モデルの福教大生  
福岡教育大学基金のご案内

23 キャンパスからの便り



号特別企画

育大学をまるごと紹介

# ぐ・ひろがる』

ふれる福教大へ。

学生が運営主体となったCOMES Netが発足しました。学生が主体となり、お互いを支えあうことにより(Peer Support)、授業や学生ボランティアをはじめとした課外活動をより充実したものとし、学生の皆様がより一層高度な教育実践ができる教員に育っていくことを大いに期待します。

「共に学び」、「語り合い」、「共に行動し」、より充実した学生生活を送ってほしいと願っています。

副学長(入試・就職担当)  
教育学部長

藤金 倫徳





## 福教大のボランティア

## UTEF's Volunteer

視野を広げる、貴重な学び。  
明日の教育を担う教育実践力に。

福岡教育大学では、ボランティア活動を通して子どもたちと関わる機会が多くあります。学校支援ボランティアでは、授業中の学習支援をしたり、昼休みには子どもたちと一緒に遊んだりします。実際の教育現場に入ると、子どもたちへの声かけの仕方や、タブレット端末を使った授業の仕方など、学ぶことがたくさんあります。学校だけでなく、地域のお祭りの企画・運営に関わることや、放課後の学習支援、子ども食堂の補助といった子どもの居場所作りに関わる活動もあります。

ボランティア活動は、お金では買えない貴重な経験です。子どもたちと関わる時間は、お互いに成長できる素敵な時間になることでしょう。

## Message

私は1年生の5月から様々なボランティア活動に参加してきました。中でも印象に残っている活動を2つ挙げます。

まず、中学校では支援学級に入らせていただきました。この経験を通して、自分の課題を把握することや、子どもと関わる中で自分の立ち位置を考えるなど、自分自身と向き合うことが出来ました。

また、東日本大震災の支援の一環として、宮城県に行きました。震災・台風などの自然災害の影響を自分の目で見ることで、自分が教師になった時取り組みたいことを考える機会になりました。

ボランティア活動では、これまで自分にはなかった考え方や声かけの仕方を学びました。貴重な経験が出来るこの機会を、ぜひ活かしてほしいと思います。



学生ボランティアリーダー

いしやま わかな  
初等教育教員養成課程4年 石山 和佳菜学びと、その振り返りを実現する。  
学生ボランティア活動  
認定評価制度

大学生活を通しての活動時間や活動内容に応じて一定の評価基準が定められています。ボランティアコーディネーターとの面談：自己評価：外部評価：認定会議を経て、段階ごとに認定を受けるシステムです。

基準をクリアした学生には、ボランティア活動を通して、ねらいとする資質能力を身につけたということを内外に証明する「認定証」が学長より授与されます。



## このような認定証がもらえます

学生ボランティアサポーター  
特別支援教育教員養成課程 初等教育部4年  
ささきまゆ  
佐々木 真由さん

## サポーター認定

(活動累計100時間)

認定要件：活動への主体性  
ねらい：学校や地域社会のボランティアに主体的に参加することができる。

## チーフ認定

(活動累計200時間)

認定要件：異校種活動・地域活動  
ねらい：学校・地域社会のボランティア活動のよさや課題を理解しようとする。

## リーダー認定

(活動累計300時間)

認定要件：行事等の企画・運営  
ねらい：学校や地域社会、大学のボランティア活動の運営や企画に参加・協力できる。



である福岡教育大学。  
多くの機会の中から、教育実践力に結び付く特色ある取り組みを2つご紹介します。

## 福教大の教育実習

## UTEF's Teaching Practice

### はじめて先生と呼ばれる経験。 コロナ禍の学校現場で磨く教育実践力

学生ボランティアサポーター にひら ななみ  
初等教育教員養成課程2年 **仁衡 七海**

3日間の体験実習は、教育現場で子どもたちと触れ合い、現場の雰囲気を感じることができ、私にとってとても貴重な経験となりました。コロナ禍での体験実習では、授業の参観は廊下で行い、子どもとの触れ合いは控えるという制限されたものでした。しかし、そんな中でも一番印象的だったことは、初めて「先生！」と呼ばれる経験をしたことです。はじめは慣れず、くすぐったい呼ばれ方でしたが、3日間という短い時間の中で、私に「先生になるんだ」という自覚を持たせてくれるものでした。自分が教員になるときに世間がどのような状態になっているかはまだまだ分かりませんが、この体験実習で感じたことはずっと忘れずに心に留めておきたいと思いました。



### 仲間と共に学び、現場で役立つ**即**戦力を。

### 最先端の学びは、九州の教員養成拠点大学で。

福岡教育大学では、4年間を通しての体系的な教育実習プログラムが構成されています。1年次からスタートする専門的かつ実践的なカリキュラムにより、教育現場の即戦力となる高水準の教育実践力を有する教員を養成しています。教員養成大学だからこそ開講できる専門性の高い授業と、「学校の先生になる」という同じ志をもつ仲間たちとの学びは、本学の誇る魅力です。

### 授業づくりはここからはじまる。 附属小実習と教材研究



学生ボランティアリーダー たに なぎさ  
初等教育教員養成課程4年 **谷 凪彩**

附属久留米小学校での実習では、音楽科、国語科、理科の授業を担当させていただきました。理科では、どんな材料、方法、道具が子どもの学びに繋がるかについて、実習班の仲間と話し合いながら試行錯誤し、実験を作りました。音楽科では、隣のクラスの音楽科担当の学生と初めて出会う拍子子どもたちがどのように視覚化すると分かりやすいのかについて何度も話し合いました。国語科では、実習班で授業をリレー形式で繋ぎ合い、単元の目標を達成するために個人の考えをすり合わせ、協力して共通のねらいを確立させました。どの授業においても実習生同士の協力によって乗り越え、話し合ったことは新たな学びへと繋がりました。



# 一生の思い出づくりを、 赤間キャンパスで。

福教大でつながる学友の和、そして学びの輪。

学生ボランティアリーダー  
初等教育教員養成課程4年

やす むら たいち  
安村 太智

学生ボランティアチーフ  
中等教育教員養成課程家庭専攻3年

まつ だ なごみ  
松田 和

学生ボランティアサポーター  
初等教育教員養成課程幼児教育選修4年

ます だ  
増田 さくら

## Message for Junior

### ここ 【福教】からはじまるキャンパスライフ

私は1年生の頃から、サッカー部のマネージャーとして活動しています。4年生になり、大学の授業や部活動に加え、教員採用試験の特別講座の受講や、筆記試験の勉強に取り組む忙しい毎日ですが、大好きな仲間たちと楽しいキャンパスライフを送っています。

福岡教育大学のキャンパス内では、キャリア支援センターでの就職支援、英語習得院での語学学習支援など、学生1人ひとりのニーズに応じた支援を受けることが出来ます。優しい職員のみなさんに支えられながら、夢の実現に向かうことができる素敵な空間です。

もちろん、ひとりでのんびり過ごすこともできます。私はよく空きコマ(授業が無い時間帯)に、図書館で本を読んだり、課題をしたりしていました。また、静かなキャンパスを通り過ぎる風は心地よく、中庭のベンチでついうたた寝をすることもありました。

みなさんも【福教-ここ-】で、同じ夢を志す仲間とともに、学んでみませんか？

Message by. 増田 さくら





## 大学内に本物の教室を再現 学修環境と施設の充実

JR鹿児島本線「教育大前駅」にほど近い福教大の西門から続く坂を抜けると、緑に囲まれた静かなキャンパスが広がります。教員養成大学ならではの教室も完備。



## 光が差し込む学びの空間 新しい Co-Learning Space

旧コモンスペースの設備品も一新。気軽に入出りできる学びの空間に生まれ変わりました。ディスカッションや打ち合わせ、小会議などに利用できます。



## 卒業後の進路を見据えたサポート体制 キャリア支援の充実

キャリア支援センターには、教員採用試験関連の書籍や資料、その他就職関連の資料が充実しています。また、専門の就職支援アドバイザーによる面談も受けることが出来ます(※要予約)。



## 心とからだの健康は宝物 健康科学センターのケア体制

医師、看護師、カウンセラーが在籍しており、診察、健康相談、睡眠相談、カウンセリングを受け付けています。学生や教職員の心身の健康をサポートします。



## グローバルに生きる教師を目指す 英語習得院(ELI)講座

英語で「聴く」「話す」技能の基礎的運用能力の習得や、留学に必要な英語力の向上をめざす全学共通の講座を開講しています。現職教員向けの講座も実施しています。



2019年度国立彰化師範大学へ留学した学生

## 百聞は一留学に如かず 協定留学・短期研修

新しい出会い、新しい学びで視野が広がる留学。短期(2週間~1ヶ月)と長期(6ヶ月~1年)の留学を紹介しています。少しでも興味がある方は、まずは連携推進課窓口へ。





初等教育教員養成課程

たなか まりな

4年 **田中 万梨奈**さん



初等教育教員養成課程

むかい りゅうま

4年 **向井 隆真**さん

**田中さんのある1日**

9:00～	教採の勉強(学校で)
10:25～	ゼミ(生田ルーム)
14:30～16:00	4年生教採特別講座
17:30～	アルバイト
21:00～	帰宅
23:00～	就寝

4年生になると、授業の数が少なくなりますが、教員採用試験の勉強や就職活動が忙しくなってきます。私は教員志望のため、大学で友達と一緒に勉強してから、教採の特別講座を受けて、地元で塾のアルバイトをしています。

実家生なので、行ったり来たりすることが大変ですが、一人暮らしの友達の家遊びに行くのも楽しいですよ!そこで、料理など教えてもらっています。料理上手になれるように頑張りたいです…!

**私のイチオシ!この授業がすごい!**

**2年次前期・後期「学級づくりの理論と実践」**

担当教員 学校教育ユニット **鈴木 邦治** 教授  
教育心理ユニット **生田 淳一** 教授

この授業では、学級づくりについての様々なデータ・理論を、生田先生や鈴木先生から学ぶことができます。

さらに、本学OBの教員を迎えて開催される「学級づくりちゃぶ台トーク」という企画は、学生に大人気!

**向井さんのある1日**

9:00～	企業インターンシップ
14:30～	ゼミ(吉武ルーム)
17:00～	勉強・読書
23:00～	就寝

午前中は、教育系企業でのインターンシップを行っています。教育現場におけるICT活用について、企業という立場から教育現場を見つめるという貴重な経験ができています。また、マレーシア語学研修、米国ウィスコンシン大学ラクロス校への短期留学など、1・2年次に参加した本学のプログラムでの学びが、私の学校教育課題研究(卒業論文)のきっかけになりました。ゼミでは、外国語教育における異文化理解・英語コミュニケーションに関する探究活動を行っています。大学生活残り1年、「感謝」と「探究」を念頭に置き、夢に向け日々邁進しています。

**私のイチオシ!この授業がすごい!**

**3年次前期「異文化コミュニケーション論」**

担当教員 英語教育ユニット **レオナルド・タッド** 教授

この授業では、レオナルド先生の著書を読み、日米文化の比較をしながら、毎回、あるトピックについて英語で意見交換を行います。自分の意見を主張できたり・多様な視点から物事を考えられたりして楽しい授業です。



に聞いてみました。



初等教育教員養成課程  
にっ た もも か  
3年 **新田 桃花**さん



初等教育教員養成課程  
た な か み さ の  
2年 **田中 海彩乃**さん

**新田さんのある1日**

10:25~16:00	授業
16:30~19:30	部活
20:00~	帰宅・夕食等
22:00~	映画鑑賞等
24:00~	就寝

私は主に2限から4限に授業があります。週2日は、授業後に所属するラクロス部の活動をしています。部活がない日は、アルバイトをしたり、友達と遊んだり充実した日々を過ごしています。みなさんも一緒にラクロス部で充実した日々を過ごしませんか？ @uteflax

**田中さんのある1日**

8:40~11:55	授業
13:00~16:30	課題・英語
17:00~	軽く運動
18:15~20:00	プログラミング
22:00~	英会話
24:00~	就寝

私は1日に2コマ授業が入っていることが多いので、他の空きコマの時間を自分のしたい勉強に使っています。サークルは「KIZUNA」と呼ばれる国際交流サークルに入っていて、遠隔のイベントを通して、留学生との交流を楽しんでいます。寮に住んでいるため、週末は寮の友だちとご飯を一緒につくったり、遊びに出かけたりして、気分転換しています。



**私のイチオシ!この授業がすごい!**

### 2年次前期・後期「板書指導」

担当教員 美術教育ユニット **和田 圭壮** 教授

この授業は、書写・書道を専門とする和田圭壮先生が開講しています。板書指導の授業は毎年受講生から好評で、抽選が行われるほどです。チョークの研ぎ方から教わることができ、綺麗で見やすい板書の技法が身につく実践的で楽しい授業です!

**私のイチオシ!この授業がすごい!**

### 2年次前期「教科横断的な資質能力育成」

担当教員 学校教育ユニット **菅沼 敬介** 講師

この授業では、グローバル社会の中で将来生きていく子どもたちにとって求められる学力とは何か、また、それを養うために次代の教員はどのように指導すればよいのかを学ぶことのできる授業です。一見、難しく感じるかもしれませんが、授業では私たち学生自身に与えられたテーマに対し、実際に調べ学習を行い、自由に研究するという活動やグループトークといった活動も多く取り入れられているので、毎回の授業がとても楽しいです。多くの受講生に好評の授業なのでおすすめです!





左)福岡教育大学副理事(キャリア担当)  
キャリア支援センター長・教職大学院副院長  
教育心理ユニット教授  
**生田 淳一 IKUTA Junichi**

中央)中等教育教員養成課程家庭専攻3年  
熊本県出身・県立熊本農業高等学校卒  
**松田 和 MATSUDA Nagomi**

右)初等教育教員養成課程4年  
長崎県出身・県立猶興館高等学校卒  
**安村 太智 YASUMURA Taichi**

## 福教大に来て良かったこと

**生田** 福教大に来てよかったって思うこと、どんなことがある？

**松田** 昨年のこの時期、マスクが不足していたこともあって、福祉支援ボランティアの一環として「マスクづくり」をしたんです。私が入りまわめをする中で、マスクの材料や場所を提供してくださった家政教育ユニットの先生方や、協力してくれた仲間が存在が私にとっての原動力になりました。

**生田** それはいい話だね。

**安村** 支え合って、声を掛け合って何か活動できるのは素敵だね。

**松田** 私もそう思いました。みんなが「ひとつ」になるっていう体験は、福教大に来てよかったなあと思いました。

**生田** あのコロナ禍でマスクづくりの活動をしたのは凄いよ。出来上がったマスクは？

**松田** 出来上がったマスクは、市役所や福祉施設に寄贈しました。

**安村** 喜ばれただろうね。本当に素敵な活動を経験してきたんだね。

**生田** ほんとだね。

**生田** やっぱりコロナの1年、学生のみんな大変だったよね。



イラストを添えたマスクの取り扱い説明書も、松田さんの手作り。感染症の早い収束を願い、学業の合間を縫って多くの時間をミシンと向き合い続けた。

**安村** 授業の在り方も大きく変わりましたからね。「オンライン授業」や「ハイブリッド型授業」とか、今までになかった言葉も生まれましたよね。

**松田** そうですね、そして本当に情報が少なかったです。

**安村** 生田先生とSNSを使っでの広報の在り方を考えたのもこの時期でしたね。

**松田** ちなみに、生田先生と安村さんの出会いはいつですか？

**生田** 安村くんが1年生のときから。学生の中では一番長いね。

**安村** 生田先生と一緒に活動させて頂いて4年目ですね。

**生田** そうだね、今まで学生のニーズに応える活動を考えてきて、今年から学生の新しい活動も本格的にスタートできたよね。

## 新しい学生による活動がスタート

**安村** そうですね。令和3年度から、学生支援ネットワーク事務局 (COMES Net)の活動がスタートしました。

**松田** 「COMES(かむず)」ってどんな意味があるんですか？

**安村** Co-Creation、Opportunity、Management、Education、Society、それぞれの頭文字から取ったんだよね。

**松田** なるほど。それぞれに思いがこもってるんですね。

**生田** そうそう、僕と安村くん色々準備してきました。

**安村** コンセプトは「まなぶ・つなぐ・ひろがる」を掲げました。大学の授業や実習、課外活動から学んだことが、日常生活や将来につながって、新しい学びや、人の「輪」が広がっていく。学生の「和」も深まって欲しいな、と思っています。

**生田** 学生のチカラで、もっと多くの「学びの場」を提供していきたいですね。どんな活動をしていきたいですか？

**松田** 私は食育を通して、地域と大学をつなげたいと思っています。食についての情報を発信することで、学生の食生活の改善と、コロナ禍で失った「人とのつながり」を取り戻したいです。

**安村** いい活動だね。これから一緒に頑張っていきましょう。



## ひろがる学びの創り手は、学生。

- 生田** みんなのこれからの活動に学長も期待してくださっているからね。  
**安村** みなさんに応援されているこの活動、後輩たちにつなげていきたいと思っています。グローバル支援、ボランティア支援など、これから学生目線で幅広い「学びの場」を企画したり、情報発信に努めていきます。  
**松田** 先輩方の思いをつなぐのは、私たちの出番ですね。  
**生田** 大学としても、みんなの学びをもっと支えていきたいと思ってのよ。そして、それぞれの夢を実現してほしいね。  
**安村** 生田先生、今日は貴重なお時間ありがとうございました。  
**松田** とても楽しい時間でした。ありがとうございました。  
**生田** みんなの新鮮な声が聞けて、僕も嬉しかったよ。ありがとう。

※感染対策を徹底したうえで撮影を行っています。



生田教授を招いての打ち合わせの様子。  
COMES Netの事務局は和気藹々と、いつも笑顔の花が咲いている。

## まなぶ・つなぐ・ひろがる

——— 主役は学生、魅力あふれる福教大へ。



私は、学生のみなさんが「今」必要としている情報を発信することや、学びの場づくりの担当をしています。楽しみながら学びを深め、世代を越えて学び合うことは、生涯学習の基礎になります。将来現場に出て役立つ「教育実践力」を身につけるための学びの場(各種研修やワークショップの開催)の提供をはじめ、SNSや動画コンテンツを活用した新しいカタチでの情報発信に努めていきます。

企画・広報担当  
初等教育教員養成課程2年  
みうら こはる  
三浦 小晴

私は学内外に向けてのPRを担当しています。現在は、本学のオリジナルグッズの開発を中心に活動を進めています。便利で実用性のあるオリジナルグッズを開発するために、集まってくださった学生スタッフの方と一緒にオリジナルグッズの検討を重ねています。商品化されたグッズは本学生協にて販売予定です。本学に來学した記念に「福教大グッズ」はいかがですか？

PR促進・グッズ開発担当  
初等教育教員養成課程2年  
にひら ななみ  
仁衡 七海



## Message

### 「JOYAMA通信50号特別企画」の編集に携わって

今回の「JOYAMA通信50号特別企画～まなぶ・つなぐ・ひろがる～」は、学生が企画から構成までの過程に携わり、学生の手によって、50号という節目にふさわしい、今までにない誌面構成が実現しました。

JOYAMA通信という、多くの方の目に触れる広報誌の企画編集に携わることができてとても光栄に思います。今回、校正という仕事をさせていただいて、元の文章で伝えたかったことは何かを考え、それを踏まえて分かりやすい文章に整えることの難しさをととも感じました。

今回は、学生の目線から情報を発信しているため、読者の皆様が大学の情報をより身近に受け取ることができるようになってきていると思います。

JOYAMA通信50号特別企画 校正担当 やました ゆうと  
初等教育教員養成課程4年 山下 悠斗



【企画】学生支援ネットワーク事務局(COMES Net) JOYAMAプロジェクトチーム  
 《記事執筆》石山和佳菜・谷尻彩・仁衡七海・増田さくら・三浦小晴・松田和・安村太智(五十音順)  
 《全体校正》山下 悠斗 《統括・誌面構成》安村 太智 《統括助手》松田 和  
 《Special Thanks》OKAWA Mai・YAMAMOTO Waka・KANAMOTO Yuki・OTA Mayuri・AKIMOTO Nonoka

## 1 JICA九州と連携協力覚書を締結

独立行政法人国際協力機構九州センターとの間で連携に関する覚書を結び、去る6月30日に覚書締結式を挙行了しました。同覚書は、両機関のさらなる連携により、開発途上地域への国際貢献、教育研究の発展に寄与することを目的としています。

締結式では、飯田学長から「多様な知識・経験を持つ人材との交流を促進して、学生の学びの裾野を広げるとともに、学生が多様な価値観に触れ、広い視野や思考を広げることで、地域社会が求める高い資質・能力を備えた教師を養成したい。」と抱負が述べられました。また、吉成所長から「国際協力のプロフェッショナルであるJICAと教育のプロフェッショナルである福岡教育大が連携強化することで、次世代の育成や持続可能な地域社会の実現に貢献したい。この連携を通じて、双方にとって、相乗効果

の果実を实らせたい。」と本覚書の意義が語られました。

今後は、ESD(Education for Sustainable

Development)の推進を第一歩として、複数の連携事業を実施していきます。



飯田慎司 福岡教育大学長(左)、吉成安恵 独立行政法人国際協力機構九州センター所長(右)

## 2 「第2回ポップアップキャンパスinむなかた」に本学学生が参加

本学は、同じ宗像市に所在する日本赤十字九州国際看護大学、東海大学付属福岡高等学校、福岡県立宗像高等学校及び宗像市とともに「むなかた大学のまち協議会」を組織し、「地域と大学が一体となった魅力ある大学のまち」の創造のため連携事業を実施しています。

この協議会の本年度のイベントとして「ポップアップキャンパスinむなかた」が、令和2年12月21日・22日に「大学生 & 高校生 & 地域住民の連携でSDGsにチャレンジ」をテーマに開催され、本学から3名の学生が参加しました。

12月21日の第1部・第2部は、コロナ禍のため、Zoomを使用したオンラインでの開催となりました。第1部は2大学、2高校及び地域の活動紹介が行われました。本学学生は、「力のある教員となるための教育実習と学生ボランティア活動」について発表しました。教員になるための学びの場であり、かつ、大学で学んでいることの実践と振り返り

ができるボランティア活動を通して、自身の成長への実感や、専門性を生かして学校・地域に役立つことができる喜びや達成感が得られていることなどを報告しました。各団体の発表を受けての第2部では、「連携によるSDGsの実現へ」をテーマに、それぞれの大学及び高校の特性を生かした地域との連携事業のアイデアについて協議しました。

翌22日に開催された第3部では、地域のコミュニティセンターを会場に、Zoomとのハイブリット形式で、学生・生徒及び地域の方による協議が行われました。新型コロナウイ

ルス感染症対策のため、パネルやマスク越しの討論でしたが、第2部での協議で出たアイデアの実現に向けて議論を深めました。本学学生も、「模擬授業を地域の中高生に発信してコメントをもらう」「ジェンダーなどの社会問題についての協働での教材作りや勉強会を開催する」などのアイデアを出し、参加者から賛同を得ていました。

「ポップアップキャンパスinむなかた」を契機に、今後も学生の交流や活動の場が広がっていくことが期待されます。



第1部・第2部 Zoomミーティング



第3部 吉武地区コミュニティ・センターでのミーティング



## 筑紫女学園大学と教員養成に関する連携協定を締結

令和2年12月22日(火)筑紫女学園大学と教員養成の充実を図ることを目的に、連携協定を締結しました。締結式には、筑紫女学園大学から、中川学長、渡辺副学長、石原教職課程委員長、平井事務長、田中連携推進部長、福岡教育大学からは、飯田学長、相部理事、森副学長、金子事務局長、青山教職実践専攻主任が出席して行われました。

今回の協定締結により、本学教職大学院へ進学を希望する筑紫女学園大学の学生に対する特別選抜の実施や、学生及び教職員の行事等の交流を行うこととなります。

協定の締結は、福岡女学院大学に続き2校目となります。

本協定の締結により、今後も筑紫女学園大学と協力し、多くの優秀な教員を輩出していきたいと考えています。



飯田慎司 福岡教育大学 学長(左) 中川正法 筑紫女学園大学 学長(右)  
※写真撮影時のみマスクを外しています。

## 令和2年度福岡教育大学学生表彰式を挙行

令和3年2月15日(月)、本学第一会議室において、令和2年度福岡教育大学学生表彰式を行いました。

本表彰は、研究、課外及び社会活動等において、特に顕著な成果や功績を収めた本学学生及び学生団体を表彰するもので、今年度は8名の学生が表彰の対象となりました。

今年度はソーシャルディスタンスの確保・マスク着用等の新型コロナウイルス感染症対策を講じた中での授与式となり、本学後援会副会長、役職員及び指導教員・顧問教員が見守る中、飯田学長から対象学生に表彰状と副賞が贈呈されました。飯田学長から「皆さんが本学の名誉を高められ、本学の良き伝統の継承者となられたことを、学長と

して大変誇りに思います」、薄後援会副会長から「今般の大変な状況下で、功績をあげた学生の皆さん、指導に当たられた先生方、誠におめでとうございませう」とお祝いの言葉が贈られました。

これを受け、受賞者を代表して、大学院教育学研究科教育科学専攻教科教育創造コース美術教育領域2年の田代ゆかりさんから、「それぞれの活動での成果は、大学の環境及び周囲の方々の後押しによるものです。今後、自らの能力を高められるように研鑽に努め、さらなる飛躍を期

したいと思います。また、後援会よりいただいた副賞は今後の課外活動、研究活動のために使います」との感謝の言葉と抱負が述べられました。



学生表彰受賞者と学長(中央右)、後援会副会長(中央左)  
※写真撮影時のみマスクを外しています。

## 「東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会」出張講座プログラムを実施

令和2年度後期の「健康・スポーツ科学実習II」(全課程1年生必修)の一環として、令和2年12月から令和3年1月にかけて、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(以下、組織委員会)が開催している「2020年度 大学連携 出張講座プログラム」を受講しました。

受講したプログラムは次の4つのプログラム:「①スポーツの力、オリンピックムーブメント(知念令子先生:組織委員会スポーツ局競技運営部スポーツマネージャー)」「②オリンピック・パラリンピックと私(新山美紗子先生:組織委員会 国際局NOC/NPC部NOC/NPCリレーションズ課)」「③オリンピック・パラリンピック文化から学ぶキャリア

形成(加藤貴也先生:組織委員会企画財務局 アクション&レガシー部 アクション&レガシー課)」「④オリンピック・パラリンピックにおけるアンチ・ドーピング活動(平井千貴先生:組織委員会大会運営局 医療サービス部 アンチ・ドーピング課)」で、およそ250名の学生が受講しました。

コロナ禍のため、Web会議システムを使ったリモート講義の形式となりましたが、講師の先生方が実際にオリンピック・パラリンピックの準備・開催に携わっている方々であり、オリンピック・パラリンピックの意義や文化、各部門の

取組、実際に組織委員会活動の中で感じられたことなどを紹介していただき、非常に内容の充実した講義でした。受講した学生達は画面を通しての講義ではありましたが、熱心に受講し、活発な質疑も行われました。



リモート講義の様子

## 音楽科『声楽専攻生によるホールコンサート』のYouTube配信

福岡教育大学 音楽科『声楽専攻生によるホールコンサート』を昨年の暮れ、令和2年12月16日水曜日に、なみきホールに於いて開催致しました。

声楽専攻生は、コロナ禍の中、橋本エリ子教授、原 尚志准教授の指導のもと、皆様にクラシック音楽を心から楽しんで頂けるように、日々練習に励みました。

今年は、新型コロナ・ウィルスの影響の

為、やむを得ず無観客でのコンサートを実施することになりましたが、毎年演奏を心から楽しみにして下さる観客の皆様の為に、当日のコンサートの様子をYouTube配信にてお届けしています。

学部1年生から大学院2年生まで総勢17名の歌唱で、オペラ・アリア、イタリア歌曲、ドイツ・リート、日本歌曲などクラシックの名曲をダイジェスト版にてお届けしています。



Youtube動画  
はこちら



音楽科『声楽専攻生によるホールコンサート』

## 「宗像市と福岡教育大学との教育連携強化推進会議」を開催

令和3年1月26日(火)、「宗像市と福岡教育大学との教育連携強化推進会議」を開催しました。本会議は、宗像市との連携協力に関する協定に基づくもので、新型コロナウイルス感染症対策のため、今回はオンライン開催となりました。

冒頭の挨拶において、高宮史郎宗像市教育長は、「コロナ禍において、教育委員会及び地域の学校、大学との連携の重要性が益々高まっている。」と述べられました。また、川添理事は、「危機に際して、変化することが大切ではないか」と述べました。

まず、教育実習生及び学生ボランティアの受入、出前授業、共同研究等、今年度の取組実績について報告がありました。その中で、他校から本実習を断られた学生を、地域の学校が快く受け入れて、無事に卒業単

位を取得した事例がありました。また、実習生を受け入れることにより、学校現場からは、「励みになった。」「教師の資質向上に繋がった。」等、前向きな意見がありました。続いて、宗像市側より、「教育実習システム」や「むなかた子ども大学構想」等、新規事業に係る提案があり、次年度以降、実施に向けて検討を重ねることとなりました。

結びに、瀧口健治宗像市教育こども部長

が「宗像市の重点課題は、ギガスクールと特別支援教育ととらえている。とりわけ(令和7年度開校予定の)県立特別支援学校設置に向けて、大学の知見を借りたい」と述べられました。今後も、地域の児童生徒や本学学生にとってウインウインな関係性を築くため、教育委員会及び地域の学校、大学との連携を深化させていくことが期待されます。



Zoomによる会議の様子

## 本学附属小倉中学校教諭が 文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞

文部科学省では、平成18年度より、学校教育における教育実践等に顕著な成果を上げている教職員を表彰し、意欲及び資質能力の向上に資することを目的に「文部科学大臣優秀教職員表彰」が行われています。

本年度、附属小倉中学校 日高慎二主幹教諭が、他の教職員の模範となるような実践による特に顕著な成果を挙げた教員として、令和3年1月12日にオンラインにて開催された令和2年度 文部科学大臣優秀教職

員表彰式において、萩生田文部科学大臣から表彰されました。

この度、文部科学省から表彰状を受領いたしましたので、表彰式を開催し、飯田学長から日高主幹教諭へ表彰状を授与しました。

左から相部理事、日高慎二主幹教諭、学長  
※写真撮影時のみマスクを外しています。





## 海外研修をリモート実施

2020年度で3年目(2年目はCOVID-19の為、出発直前に中止)となったミャンマーインターンシップ研修は、リモート実施となり、4名の学生が参加した(2021年3月15～21日)。本来の派遣プログラムは主に、自分の担当クラスに参加して児童生徒とコミュニケーションをとりつつ授業見学し、担当教員と協議の上、最終的に模擬授業を実施するが、今回はそのプロセスを全てリモートで実施した。

事前に「児童生徒とのコミュニケーションはとれるのか、本当に離れていて授業ができるのか」といった不安があったが、研修後は「まるで同じ空間にいてもおかしくない程授業はスムーズに進んだ。4000キロ離れたところからでも、伝えることはできるし、その人を知ることができた。」とのコメントが出る程だった。

受け入れ先のThe Khayay International SchoolはCOVID-19の影響で既に2020年度より全授業をリモート化しており、参加生もそれを活用して、小学校2年生、4年生、中学校3年生を対象に英語・日本語での模擬授業等を実施した。2月に現地で政変が勃発し、一部時間帯での通信切断があったが、結果的にはほぼスケジュール通りに研修を進めることができた。

『COVID-19の状況下でも可能な限り海外の教育現場を体験し、視野を広げる』、『リモート授業の実施体験をする』、『コミュニケーション力を向上させる』などを目的とした研修だった。参加生からは「参加できてよかった。この研修を通して言語を“壁”としてとらえるのではなく“人とのつながり”としてとらえられるようになった」、「有意義で、私のこれからの大学生活においてとても重要な1

週間になった」、「リモートだから実現できたこと、学べたことが多くある」「今回の研修で感じたことは、自分が教育に携わる身として、どのような役割を担っていきべきなのかを大学4年間で見つけていかななくてはならないということである。」等のコメントがあった。



リモート授業実施中の参加生

## 令和2年度九州教員研修支援ネットワーク第2回協議会を開催

今年度の2回目の会合となる「令和2年度九州教員研修支援ネットワーク第2回協議会」を3月18日(木)、オンライン会議により開催しました。九州教員研修支援ネットワーク(以下、「ネットワーク」という)は、平成31年3月に発足し、九州・沖縄の教員養成機能を有する大学と教育委員会が連携して、教員研修の効果的・効率的な実施に向けて情報の提供・共有や研修プログラム等を開発する組織で、福岡教育大学の教員研修支援センターが事務局を担当しています。

九州・沖縄の教員養成機能を有する大学の研究者、九州各県・政令指定都市・中核市の教育委員会関係者等約50名が参加しました。

今回の協議会では、飯田慎司福岡教育

大学長の挨拶の後、「コロナ禍における教員研修の取組について」の報告では、ネットワーク事務局が実施したコロナ禍における教員研修の取組に関するアンケート調査結果及び令和元年度ネットワークで開発した動画コンテンツの利用状況の報告が行われました。

その後、講演「リモートによる研修におけるファシリテーターの役割について」と題し、特定非営利法人日本ファシリテーション協会フェロー・九州大学大学院統合新領域学府客員准教授の加留部貴行氏をオンラインで講師として招き、オンライン授業や研修の場でのアクティブラーニング型授業の実施方法やファシリテーションの工夫についての講演の後、参加者によるブレイクアウト機

能を用いたグループワークを行いました。

最後に、令和2年度のネットワークの取組である「動画コンテンツの開発」、「動画コンテンツの管理利用の在り方」、「ネットワークホームページ(<https://www.kyuken-net.jp>)」、「研修講師データバンク」等について説明後、令和3年度スケジュール等について協議が行われ、各事業を進めていくことが了承されました。

新型コロナウイルス感染症への対応という新たな課題が加わった中、今後も、ネットワークでは、教育課題を共有し、参画機関の有する様々な専門的リソースを活かしながら、動画等コンテンツの開発等、具体的な取組に努めていきたいと考えています。



Zoomによる協議会の様子



進行を務める福岡教育大学事務局

# 11

## SIPS (Staff & student Initiative for Promoting Study abroad) に参加

SIPSとは、文部科学省の「トビタテ!留学JAPAN」事務局が、留学機運を盛り上げたい職員と学生が一体となった「大学ごとのチーム」を全国から募集し、留学機運醸成にチームで取り組む大学等を支援するプラットフォームです。定期的な大学間の相互交流や情報交換の場を設けることで、大学間のネットワーク化を図り、留学促進活動のインパクトを最大化しようという新たな取り組みです。

本学は、教職員4名、学生9名(令和3年6月1日現在)のチームで参加しており、今年度から『Polaris』というチーム名で活動しております。

※チーム名『Polaris』(意味:北極星)に込められた意味

- ・「留学という目標や、経験がこれからの人生の道標や人としての軸の一つになってほしい」
- ・「留学希望者にとって留学するまでの道標になるような活動をしていく」

### 【今後の具体的な活動】

- ・ SNS等を利用して留学の魅力を発信していく
  - ・ 留学生談話室の有効活用(留学生と日本人学生がもっと交流できるようなスペースにする)について検討する
  - ・ 既存のイベントに、SIPS(Polaris)メンバーのアイデアを取り入れる
  - ・ 留学の魅力を伝えるために新規でイベントを計画する
- など



第7回Polarisの活動の様子

【SIPS(イメージ)】



# 12

## パクンマクンを講師に「NHK大学セミナー」を開催

令和3年6月23日(水)、NHK福岡拠点放送局と共同して「NHK大学セミナー」を本学アカデミックホールにて開催しました。

講師にアメリカ人のパトリック・ハーランさんと日本人の吉田眞さんがコンビを組むお笑いコンビ「パクンマクン」を迎え、「パクンマクンの笑劇的国際コミュニケーション力」と題し、約110名の学生の前で講演を行いました。

講演では、お二人の実体験を交えた外国人とのコミュニケーションをとるコツや、英会話においては完璧主義でなくていいといった話に笑顔で頷く参加者の姿が見られました。

本セミナーは、本学の生田淳一教授が行っている「コミュニケーション・スキル」の講義の一環として開催され、参加した学生からは、「自分は英語ができないと思っていたため、その思い込みから抜け出せて嬉しかった」、「今後は自分の英語に自信を持って話したいと思った」、「英語は喋れないのではなく、喋ろうとしていないだけでと気付かされた」といった感想が寄せられ、学生の修学意欲の向上にも繋がる講演となりました。



講師のパクンマクン



会場のようす



挨拶をする生田淳一教授



# WEB

## ウェブオープンキャンパス2021

# OPEN CAMPUS 2021

日時を選ばずに  
聞きたいことが知れる

自宅で視聴可能な  
動画コンテンツ

学長による挨拶や、大学概要・入試説明、各募集単位の紹介、体験授業など、スキマ時間にゆっくり見られるコンテンツがいっぱい!

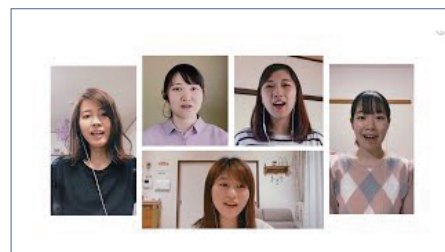
## 福岡教育大学ってどんなところ?



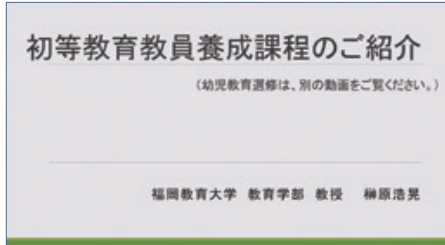
学長挨拶



大学概要・入試説明



中等教育教員養成課程音楽専攻の合唱動画



初等教育教員養成課程の紹介



入試・履修・学生生活・留学・就職などのよくある質問をまとめたQ&Aも公開しています!



## キャンパス内を歩いている ような体験をVRで

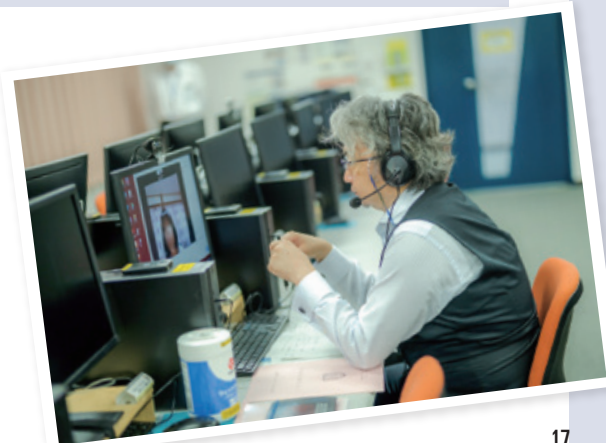
360度カメラで撮影した大学施設や屋外風景を、キャンパスマップ上で視点を選びながら体験することができます

## もっと詳しく知りたい!

直接質問・相談できる  
オンライン個別説明会

7月には教職員、先輩学生による  
オンライン個別相談会を開催!  
8月にもミニ企画を実施する予定

随時イベント情報を更新いたします。  
WEBオープンキャンパス2021の詳細は  
こちらをご覧ください



# 教員紹介 & 学生から見た先生の魅力

## いつの時代にも 変革をもたらす 言葉の力を見出してみよう

英語教育ユニット

教授 後藤 美映

最終学歴：九州大学大学院  
文学研究科博士後期課程  
取得学位：博士(文学)  
本学着任：1992年



### 専門の研究テーマ

18世紀末から19世紀初期までのイギリス・ロマン主義文学を研究しています。産業革命やフランス革命を経るロマン主義の時代は、イギリスやフランスを震源地としてその後世界中に波及するようになる革命の胎動期といえます。また、ある研究によれば、ロマン主義の時代はイギリスで約5000冊にもよる詩集が出版されたと言われ、文学の言葉が、伝統を乗り越えるための変革や新たな実験を謳い、近代を切り拓いた時代でもありました。ですので、私の研究の主題は、イギリス・ロマン主義文学が、当時の最先端の学問として、どのように言葉を通して大衆を啓蒙し、社会的変革をもたらしたのかを明らかにすることです。つまり言葉を学問するといえます。



写真左 イギリス・ロマン主義時代の詩人ジョン・キーツ (John Keats) のライフ・マスク(著者所蔵 複製)  
写真右 物語詩『エンディミオン』の冒頭 (Jack Stillinger ed. *The Poems of John Keats*, Harvard UP, 1978, p. 103)

### 大学教員に進むことになったきっかけ

学部は早稲田大学第一文学部英文学専修で学びました。文学部での学生生活は、授業でシェイクスピアを読み、その芝居をその後劇場や映画館で観たり、日本を代表するような詩

人の授業を受けたりと、演劇、文学、映画、絵画、音楽といった芸術そのものの中で日常を送るような刺激的な日々でした。そして特に、多くの学友と同様私も、本の活字無くしては生きられないほど本を読むことが好きでしたので、そうした中で出会ったロマン主義の詩人の詩を、大学院に進学して研究することにしました。



世界最大級の知の殿堂、大英図書館の内部  
——ここで研究を行ったりします(著者近影)



本とともにある研究室

### 研究成果の教育への還元

授業では、ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロのイギリス小説や、世界文学の旗手とも称される村上春樹の小説を、ハーバード大学で教鞭を執った日本文学者のジェイ・ルービンの英語の名訳で読み、英語の基礎的な力を養うだけでなく、英語と日本語の構造や文化の違いを学んだりすることによって、言葉としての英語や日本語についてじっくりと考えることを教えています。また、「日本」とは何か、人種、ジェンダー、セクシュアリティ等によって規定される「人間」とは何かといったような現代的な課題について、英語や日本語でディスカッションしたりプレゼンテーションしたりすることによって、学生が広い視野と学識を得ることを目指しています。

### こだわりの物・考え・モットー

イギリスが好きで、特に紅茶にはこだわりを持っています。朝から、丁寧に紅茶を入れて味わうことはもちろんですが、ティー・ポットから注がれる澄んだ琥珀色の紅茶を目にするだけで、ほっとします。

### 福岡教育大学で学ぶ学生に一言

大学は、何かを与えてくれるのを待つ場所ではなく、自分で何かを見つけるために自ら動く場所であることを自覚し、4先生になってこれだけは誰にも負けないというものを持った学生になってください。そして、みなさん、多くの本を読んでください!

### 学生から見た先生の魅力

中野 健斗、木藤 太一、鳥谷 亮介、大城 理依香、永宗 愛、山頭 由真  
(中等教育教員養成課程 英語専攻3年)

後藤先生は、英語への愛が溢れ、普段の授業でも学生と一緒にあってとても楽しそうに講義を行って下さいます。英語の知識・表現力、そこから読み取れる文化や背景など、多くのことを教えてくださるので、私達学生もわくわくした気持ちで英語と向き合うことができます!



コロナ禍での授業を終えて、マスクをつけて中庭で。  
みんな、勉強熱心で優秀な学生たちです。



# 柔道部

中等教育教員養成課程保健体育専攻 4年

まつ みひろ かず  
松見 拡和

私たち柔道部は現在4年生4名、3年生1名、2年生1名、1年生5名の男子11人で活動しています。2000年に開催されたシドニーオリンピック銀メダリストの橋崎教子先生のもと、毎週月曜日から土曜日の週6日柔道場で、7時からの朝練習と16時半からの午後練習を行っています。

また、『全国大会出場・上位入賞』に向けて、部員一人一人が高い意識を持ち、毎回の練習・大会に臨んでいます。日頃の努力の成果が発揮され、全日本学生選手権出場といった、全国レベルの大会に出場するなど様々な大会で結果を残しています。

11人という少ない人数ではありますが、部員全員とても仲が良く、面白い部員がたくさんいます。現在は新型コロナウイルス感染症の影響でなかなか開催することができていませんが、例年では、日々の活動の他に新入生歓迎会や卒業生お別れ会、部員全員で旅行に行くなど様々な楽しいイベントを開催しています。

柔道部では、随時部員・マネージャーを募集しています。興味がある方はぜひ柔道場に足を運んでみてください！お待ちしております！！



## サークル紹介

# C I R C L E I N F O R M A T I O N



# 茶道部

初等教育教員養成課程 4年

よし もと しゆん せい  
吉元 駿生

私たち茶道同好会は、男女合わせて5人で活動しています。少人数ではありますが、楽しくまったり活動しています。

私たちの活動は主に、月に1、2回、家政学教棟2階の和室で行なっており、茶道の基本的な作法を学んでいます。大きなイベントとしては、学祭でのお茶会を行い、毎年多くの方にご来場いただいております。

茶道の作法を学ぶことの利点としては、相手を思いやる気持ち、箸の使い方や食べ方のマナーなどを身につけることができます。友人や先輩にも、「一つ一つの所作が綺麗で、丁寧だね。」と、よく言われます。茶道を

学んで、一緒に上品で清楚な大人を目指しましょう！

茶道同好会では、作法を学ぶだけでなく、他に様々なイベントを行っています。去年は、全員で和菓子作りをしました。大福とどら焼きを生地から作り、抹茶をたててお茶会を実施しました。甘い和菓子とほろ苦い抹茶が調和しており、とても好評でした！

活動は月に1、2回なので、他のサークルと掛け持ちをしている人がほとんどです。一歩先の上品な大人になるために、一緒に茶道を学びませんか？



## 現在の仕事内容・取り組んでいること

現在、6年生の担任をしています。学校では、担任業務の他にも、校務分掌といって、様々な役割分担があります。今年度、私は学力向上部のICT、特別活動部の委員会活動、学校ホームページなどを担当しています。子どもたちが下校してから、次の日の授業準備(教材研究)をして、校務分掌の仕事を行います。おそらく、これから教職を目指す学生の皆さんには、授業以外の教師の仕事が想像しにくいかと思います。例えば、ICT担当であれば、プログラミング教育をどの日程で、どの教材を使って進めていかなどを、外部の先生と連携しながら調整をします。委員会活動の担当であれば、どの委員会を発足し、どの先生に担当してもらうか、どのような人数割りにするかなどを決め、職員会議で提案します。もちろん、担任する学級の授業や学級経営が一日の仕事のメインですが、このような学校全体に関わるような仕事もたくさんあります。

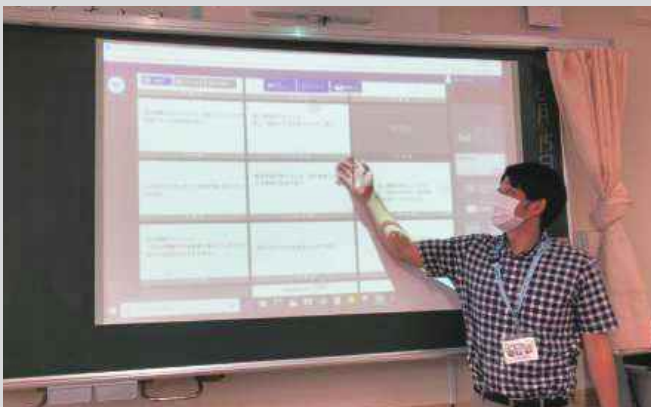
また、今年度は教科等研究委員会に参加し、音楽科の授業について実践力を磨きます。教師に求められる力として「授業力」は欠かせません。子どもたちに負けないくらい、教師も学び、成長しなければいけないと思っています。

## 福教大で役立ったこと

福岡教育大学は、その名の通り教育大学なので、まわりに教師を目指す同士がたくさんいました。学校生活を楽しみながらも、一緒に実習を乗り越えたり、講義の後には議論をしたりと、お互いに切磋琢磨しながら日々を過ごすことができました。また、教員採用試験などもキャリア



学級会のようす



オクリンクを使った児童の意見共有



テーマ研究 音楽科鑑賞領域の授業

支援センターが開講している無料の講座や、集団討論、面接等の対策講座も受けることができたので、自信をもって試験を受けることができました。

## 教職を志す学生へ

教師の魅力は、みなさんが想像している通り、子ども達とともに泣いたり笑ったりしながら過ごすかけがえのない日々や、共に学び、自分自身も成長していけること、どんな授業にするか考える楽しさなど、本当にたくさんあります。しかし、どの仕事でも同じことですが、楽しいことばかりではありません。文部科学省による教師の魅力を伝える「教師のボタン」という取り組みがありますが、教師の不満があふれているということで話題になっています。おそらく、これから教職を志す学生の皆さんは、教師の魅力に惹かれつつも、このようなマイナスな面も気になっているのではないかと思います。確かに、授業準備や校務分掌の仕事に追われ、帰りが遅くなる日も少なくありません。働き方に関して、改善しなければいけない課題はあると思います。しかし、福岡市では教師一人一人にタブレット端末が配布され、教室にはプロジェクターなどの設備が整えられ、従来の働き方とは変化してきた部分もあります。紙媒体で行っていたアンケート、手作業で行っていた集計などはGoogleフォームを使うことで自動化され、教師の負担が減りました。毎回拡大コピーして用意していた掲示物も、データをクラウドに保存しておけば、学年で共有し、いつでもスクリーンに投影できるようになりました。また、ミライシードなどのサービスを利用して、子ども一人一人の習熟度に合わせた学習の支援をしやすくなりました。ICTをうまく活用することで、業務を効率化するとともに、子どもたちへの教育効果も期待することができます。自分のやり方次第で、働き方を改善することはできます。そんな工夫を見つけながら働くことも楽しさの一つだと思います。みなさんと一緒に、楽しみながら働ける日を楽しみにしています。

福岡市立平尾小学校

まえだ ゆうさく

教諭 前田 裕作さん

- ・生涯スポーツ芸術課程音楽コース  
声楽専攻  
平成28年3月卒業
- ・教職大学院教育実践力開発コース  
小学校免許取得プログラム(3年コース)  
平成31年3月卒業







ALTの先生との外国語活動の様子



算数科学習指導の様子

## 教師はやりがいに溢れている!

「おはようございます!」毎朝、元気な子どもたちの姿が私の原動力です。何事にも全力を尽くすことを学級のモットーに、子どもたちの頑張る姿は毎日輝いています。子どもの成長と過程を間近で見られることは嬉しく、やりがいを感じています。また、授業を通して子どもたちと信頼関係を築くことも大切です。教材研究をし、授業に臨む中でも新たな発見や子どもから魅力的なアイデアが出てきます。子どもが主体的に考え、活発に表現できる授業実践を目指し、私も子どもとともに成長しています。



修学旅行で訪れたバガンの寺院(ミャンマー)



大学時代の学友、初臨教のみんなとチームTシャツを着て一致団結!



日本語を学ぶミャンマーの子ども(くだものことは見つけてしています。)

## 学生時代に学んだこと

友人や恩師と出会い、教師としての幹をつくることができました。「理論と実践の架橋」という常に学び続ける姿勢を恩師から学びました。小学校の学習支援ボランティアでは子どもたちと真摯に向き合う先生方の姿から、一人ひとりを尊重することの大切さを学びました。多くの学びの機会をくださった恩師と学び合った友人には感謝の思いでいっぱいです。



日本語の授業で書初めを体験(ミャンマー)

## ミャンマーでの教員生活

大学卒業後3年間、ミャンマーのインターナショナルスクールで教員生活を始めました。学生時代の異文化や人々との出会いが私を新たな道へと導いてくれました。温かい国民性と学ぶ意欲に溢れた子どもたちのもとで教員として「何か力になりたい。」と使命感をもち働きました。しかし、生活をしていくうちに私の方が学ばせてもらう事が多く、多様な経験を経て人間としての幅も広げることができたと思います。多文化の環境でも対話と喜怒哀楽の感情を共有することが関係性を強固にしていけるのだと感じました。

## 学生のみなさんへ

学生時代は社会に出るために絶対に必要な助走期間だと思います。今を大切に、色々な人に出会い、様々な場所に足を運んでみてください。「全ての出会いには意味がある」と思い、失敗も経験しながら前向きに走ってみましょう。経験がみなさんの力になるはずですよ。



4年生割り算の筆算の学習の様子

新宮町立新宮小学校

なかかわ あかり

教諭 中川 朱里さん

・初等教育教員養成課程学校臨床教育学選修  
平成28年3月卒業





# 福岡教育大学オリジナルグッズ販売中!

購買書籍店ステラ(学生会館2F)にて、福岡教育大学オリジナルグッズを販売しています。福岡教育大学へお越しの際はひとつ記念にいかがでしょうか。



メモ帳とボールペン、生協で販売中



手に馴染むジェットストリーム

## 表紙モデルの福教大生

今回の表紙は、学生支援ネットワーク事務局(COMES Net)の中心で活躍する2年生～4年生の学生8名に登場していただきました。COMES Netのみなさんには、これからも学生の目線で柔軟な発想をもって、学生一人一人がよりよい学びを得るための活動を続けていただきたいと思います。

活動を通して得た経験が、今後彼らが先生となったときに、大きな糧となることを心から願い、さらなる活躍を期待しています。

写真上段左から

生田教授、山下悠斗さん、安村太智さん、増田さくらさん、松田和さん

写真下段左から

仁衛七海さん、石山和佳菜さん、三浦小晴さん、谷風彩さん



## 福岡教育大学基金のご案内

福岡教育大学では、教育研究の更なる発展や充実を図ることを目的として、「福岡教育大学基金」を設けております。

特に「修学支援事業基金」では、経済的理由により修学に困難がある学生が、希望する教育を受けられるように、皆様からいただいたご寄付を、学生のために特化して活用します。

寄附をされる際に、「修学支援事業基金」と事業を特定してください。

広く教育界、産業界、地域の皆様方に、本基金への格別のご理解とご支援を末永く賜りたく、お願いを申し上げます。

公式ホームページ

福岡教育大学基金

検索

インターネット(クレジットカード払い)による寄付金の受付を開始いたしました。

お問い合わせ先

福岡教育大学財務企画課 TEL:0940-35-1210 FAX:0940-35-1701 E-mail:kaihosa@fukuoka-edu.ac.jp



# Campus Letter

キャンパスからの便り

## 後援会

### 令和3年度保護者説明会の延期について

例年開催しておりました保護者説明会は、新型コロナウイルス感染拡大のため延期することとしました。開催の時期は未定ですが、決まりましたら皆様にご案内をいたします。

福岡教育大学後援会 事務局  
TEL・FAX:0940-33-8070  
E-Mail:kouenkai@eos.ocn.ne.jp

## 学生支援課

### 「学生なんでも相談窓口」 (学生支援課)

「学生なんでも相談窓口」は、どこに相談に行けばよいか判らない…という学生さんの相談を受け付けています。適切な学内外の相談機関や専門の担当者を紹介するなど、迅速な解決を目指しています。気軽に相談に来てください。

なお、授業や教育実習に関することは教育支援課、パソコン教室のことは学術情報センター…等、「どこに相談すればよいか明白」な場合は、直接問い合わせの方が絶対早いです！ポータルシステムの「学内共有ファイル」に掲載している『学生生活』にそれぞれの問合せ先が掲載されていますので、ぜひ(!)ご覧ください。



学生センター4番窓口

学生センター4番窓口 Tel:0940-35-1754  
E-mail:gaksecho@fukuoka-edu.ac.jp

## 同窓会城山会

### 学生・新卒・若手会員 情報交換会を開催

同窓会城山会では、コロナ禍の中にあっても「今こそ確かな同窓の絆を!」という方針のもと、3月6日(土)に教育心理ユニットの生田淳一教授の全体指導を得て、オンラインのリモート会議として標記の情報交換会を開催しました。

例年のように学内会場に160名が参集する規模には及びませんでしたが、学生と青年部を中心に「教員採用試験への取組方」や「年度末・年度初めの学校の仕事の進め方」等について活発な情報交換が行われました。先の見通しが立てにくいこの時期ですが、それぞれの立場からの本音や将来の夢を語り合う有意義な会となりました。

福岡教育大学同窓会 城山会事務局  
TEL・FAX:0940-33-2211  
E-Mail:jouyamakai@able.ocn.ne.jp

## 健康科学センター

### MESSAGE No.121 2021 春号

今回の内容は、「寿命が延びて」「教員を目指す皆さんへ」「色のパワーで元気に!」「自分の気持ちをうまく伝える方法」「友達といること、ひとりであること」「タンパク質をとる」「冷えは万病のもと」など盛りだくさんです。

表紙は、表面は江頭友璃さん(初等)、裏面は江口日向子さん(初等)のデザインです。是非手にとってご覧ください。



健康科学センターHP  
<https://hokenctr.fukuoka-edu.ac.jp/>

国語以外は苦手な子が小説家になるかもしれない。  
ノートにらくがきしてばかりの子が画家になるかもしれない。  
チョウやバッタにしか興味のない子が100年後の絶滅種を減らすかもしれない。  
ケガの多いやんちゃな子が多くの命を救う医者になるかもしれない。  
インターネットばかりしている子が平和を創るプログラムを発明するかもしれない。

その可能性を広げる。

教師は、  
世界を変える仕事だ。

あすの教育に、夢を。



国立大学法人  
福岡教育大学  
University of Teacher Education Fukuoka

[www.fukuoka-edu.ac.jp](http://www.fukuoka-edu.ac.jp)

Joyama 通信 vol.50

福岡教育大学広報誌第50号 2021年7月28日  
編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学 経営政策課

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1  
TEL.0940-35-1205 FAX.0940-35-1259  
e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp  
ホームページ: <https://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



福岡教育大学  
イメージキャラクター  
フッキー



携帯電話サイト



Twitter



YouTube

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。